

金山病院乳腺外来 広報げろ 2014.5

金山病院乳腺外来

金山病院乳腺外来は開設以来今年で21年目を迎えています。その間、多くの皆さんにご利用いただき南飛驒の乳腺診療の拠点となっています。そこで今回は金山病院乳腺外来についてお話しします。

◎乳がんは女性のがんのなかで最も多く、現在では16人に一人は乳がんになっているといわれています。また、乳がんは40代後半から50代前半にかけて最も多く発見されており、家庭的にも社会的にも責任のある年代に多いがんでもあります。

乳がんの治療は手術ばかりでなく術後の抗がん剤などによる薬物療法が必要なことも多く、また、ほかのがんと比べても5年間再発がなければ完治したと判断されるものでなく、手術後何年たっても再発の危険性があり、長期にわたるきめ細かい経過観察が必要です。

◎乳がん検診

金山病院では乳腺外来開設時よりエコー検査による乳がんの出張検診を続けて、当地域の乳がんの早期発見と治療の啓蒙に努めてきました。現在では病院においてドック、職場検診、クーポン券による検診などを行っています。検診内容は、問診、視触診、エコー、MMG(マンモグラフィ)です。MMGは1~2年に一回、エコーは毎年となっています。日本人で乳がんが多く発見される年齢ではエコー検査はより有効な診断手段になっています。そのため金山病院ではMMGばかりでなくエコーによる検診に力をいれています。検診は年1回は受けるのが望ましいと考えます。

◎金山病院を受診されたら

乳房の異常を訴えて、また検診で要精密検査となって受診された方に対して触診、エコー、MMGなどの画像診断、細胞診、針生検、マンモトーム、切開生検などの組織診断など各種検査を行って乳がん発見に努めています。組織診断は入院の必要はなく、自分で車を運転して帰っていただけます。

◎乳がんの治療

乳がんは手術的に取り除くことが原則ですが、金山病院では癌の進行程度によって乳房を切除(全摘)する手術や乳房を部分的に切除(乳房温存)し乳房の変形をできるだけ少なくした手術を行っています。定期的投薬や抗がん剤治療が必要なことも多く、定期的な注射や経過観察のためにも近くの病院の役割が重要と考えています。乳房を残した場合現在の標準的治療では温存乳房に放射線を照射します。放射線治療が行える病院に25日(25回)通院していただきます。

◎今後の展望

女性のがんの中で乳がんはますます増えると考えられます。金山病院乳腺外来は今後も皆さんに頼っていただける身近な病院として乳がんの早期発見と生活に密着した治療に力を注いでまいります。

金山病院乳腺外来 古田智彦